

## 久世福商店創業 5 年、万能だし販売累計 100 万個突破

# 看板商品「風味豊かな万能だし」価格引き下げ

「久世福商店」、「St. Cousair (サンクゼール)」などの専門店を全国に 150 店舗以上展開している、食品製造小売企業（食品 SPA）の株式会社サンクゼール（本社：長野県飯綱町／代表取締役社長：久世良太）は、2018 年 11 月 1 日（木）より、久世福商店の看板商品である「風味豊かな万能だし」15p、30p の価格を引き下げることと決定しました。



●風味豊かな万能だし  
5p/¥600+税  
15p/¥1,200+税 (旧¥1,600+税)  
30p/¥2,100+税 (旧¥3,000+税)  
久世福商店（一部サンクゼール含）  
店舗、及び通信販売で販売。

### 久世福商店創業 5 年、「風味豊かな万能だし」と共に

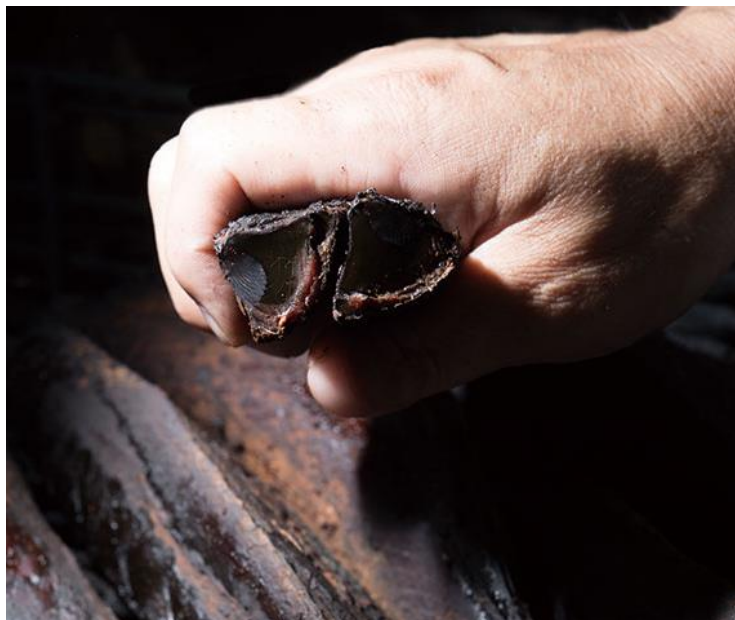
久世福商店誕生のきっかけは、遡ること 7、8 年程前のこと。当時国内でジャムやパスタソース、ワインの製造・販売で事業を拡大していったサンクゼールは、新たな販路を求めて海外の展示会などに積極的に出展していました。ところがサンクゼールの商品たちは海外では受け入れてもらえません。「日本人なら、日本の酒、醤油、味噌を紹介してほしい。」という現地の声を受け、2012 年末サンクゼール創業者の久世良三（現会長）はシンガポールの展示会で宿泊していたホテルで、たった一晩で「久世福商店」構想をまとめ上げ、幹部に一斉メールで提案しました。

年明け 2013 年から「久世福商店」プロジェクトがスタート。夢と企画書だけを持って日本全国の生産者さんを訪ね回り約 2000 アイテムの商品開発を進める一方で、それら商品を管理する物流センターの取得、購買から販売まで一貫した商品管理ができる社内システムの構築、新しいブランドのデザイン、設計。と、社内の総力を結集させ、見事 2013 年 12 月、わずか 1 年という準備期間でオープンにこぎつけました。それまで存在しなかった新しい業態ということもあり、たくさんのお客様に喜んでいただきました。またお客様だけでなく多くの業界関係者が毎日のように視察に来られました。以降次々に出店のオファーを頂き、創業 5 年でその店舗数は 70 店舗を超えました。

その創業時から看板商品として久世福商店ブランドを支えているのが「風味豊かな万能だし」。静岡県焼津の鯉節メーカーさんと一緒に何度も何度も試作、試飲を繰り返しました。容易に表現できない程メーカーさんと共に苦労し、双方の社運をかけて「風味豊かな万能だし」は完成しました。「風味豊かな万能だし」は久世福商店の創業に欠かせない存在であることはもちろん、おかげさまでお客様にも高くご支持いただき、創業から 5 年、ついに販売累計（※5p、15p、30p 合わせて）が 100 万個を突破しました。とにかく素材と味には自信がありますが、こだわりすぎるが故に市販の類似商品と比べると決して安くありません。私たちはこの高い品質を維持することを絶対条件としながら、流通形態や包装資材を見直すなどの努力を創業から絶えず続けてきました。そして前述の通り創業から多くのお客様にご利用いただいたおかげで（販売数増＝製造側からすると生産量増）原料コストが下がり、生産効率が上がり、トータルでコストが抑えられるようになりました。そこで今まで久世福商店を支えてくださったお客様へ感謝と還元のため、この度価格を見直すことに致しました。

原材料費、エネルギーコスト、人件費の高騰によって商品の値上げがやむを得ない時代ですが、久世福商店創業 5 年を迎え、より多くのお客様にもっと気軽に愛顧いただければと願い、勇気をもって価格引き下げを決定しました。価格改定により販売数増を期待するところですが、メーカーさんの協力体制によって増産体制の準備は万全です。

## 風味豊かな万能だし



(荒節の断面)

最高の「だし」を作りたいという思いから、最高の素材を求めたどり着いたのは静岡県焼津港。かつお節の原型は、1300年前の飛鳥時代まで遡り、古来より日本人が調味料として使っていたそうです。

鰹を3枚におろし、煮熟した節を直火式の焼津式乾燥機で3日3晩焙乾します。その後、急造庫と呼ばれる多層式の乾燥機へ移し、薪の直火と煙でじっくりと焙乾を続けます。約1ヶ月後ようやく火を止めると、墨のような漆黒で覆われた「荒節（あらぶし）」が完成します。

「荒節」の表面を丁寧に磨いたものは「裸節（はだかぶし）」と言い、香り豊かで旨味に溢れます。「風味豊かな万能だし」の骨格を決めるかつお節は、焼津で生み出された節のみを使用。焼津産かつお節と削り節をベースに国産さば節や瀬戸内海産のいりこ、焼きあご、日高昆布などをバランス良く配合しました。



ご多用中とは存じますが、ご取材賜りますように宜しく願い申し上げます。